

表紙モノ語り

イヌイトの版画「夏のふくろう」

標本番号:H0115398

作者:ケノジュアク・アシエバク

国名:カナダ 1979年制作



きしがみのふひろ

岸上 伸啓

民博 先端人類科学研究部

極北地域ではホッキョクグマが百獣の王ならば、フクロウは英知を象徴する動物だ。フクロウは暗くみても活動できることに由来するらしい。イヌイトの版画家や彫刻家のなかにはこのフクロウを好んで描く人がある。ケノジュアク・アシエバクもその一人だ。彼女の版画はカナダ国内は言うにおよばず、世界各地で高い評価を受け、イヌイト版画を代表する作家のひとりである。

イヌイトの版画制作は、日本の浮世絵と切っても切れない関係にある。イヌイトに滑石彫刻や版画の制作を奨励し、世界に広めた人物は、カナダ人のジェームズ・ヒューストンである。彼はアート雑誌を見ているときに浮世絵に遭遇し、こ

れをイヌイト社会に導入できないかと考えた。そして一九五八年秋から一九五九年春にかけて来日し、当時の日本版画界の重鎮、平塚運一のもとに弟子入りして、版画制作を学んだ。彼は、原画を描く人、彫る人、刷る人が異なる分業体制のしくみや制作技法、画材となる和紙をケープ・ドーセットのイヌイトに紹介した。これがイヌイト版画の本格的な始まりとなり、以降、ブレンニトゥック、ホルマン、ペーカー・レイク、パングネグトンなどの村々で版画が制作されるようになった。

版画も滑石彫刻と同じく、狩猟活動やキャンプ生活、家族、世界観、極北の動物など「イヌイトらしさ」を表象する作品が販売を目的として

制作されたが、その販売からの稼ぎがスノーモービルやガソリン、銃弾の購入などに使用され、狩猟・漁撈など伝統的な活動の継続に貢献した。さらに一九八〇年代にはアートとして欧米の美術界で認知された。

現在では、第三世代の版画家が出現し、あらたなテーマや技法で版画制作に挑戦している。

